

2024.3.6

第28回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー

# 洗浄と消毒の話

社会医療法人 共愛会 戸畑共立病院

手術室看護師 第二種滅菌技士 隈本 康太

# 目的

- 洗浄消毒業務に関わる感染対策が理解できる。
- 洗浄消毒業務に携わる際に自分の身を守ることができる。
- 正しい洗浄消毒方法が理解できる。

# 本日の内容

- 標準予防策について
- 洗浄について
- 消毒について
- 滅菌技師（士）の取り組みについて

# 標準予防策

- 感染症の有無にかかわらず、すべての人の汗を除く湿性生体物質(血液・体液・分泌液・排泄物)や粘膜、損傷皮膚は感染源となり感染する危険性があるものとして取り扱うこと。

# 標準予防策 スタンダードプリコーション とは

①手指衛生

②個人防護具(PPE)

③呼吸器衛生/  
咳エチケット

④患者の配置

⑤患者ケアに  
使用した器具

⑥環境の維持・管理

⑦リネン類の  
取り扱い

⑧安全な注射手技

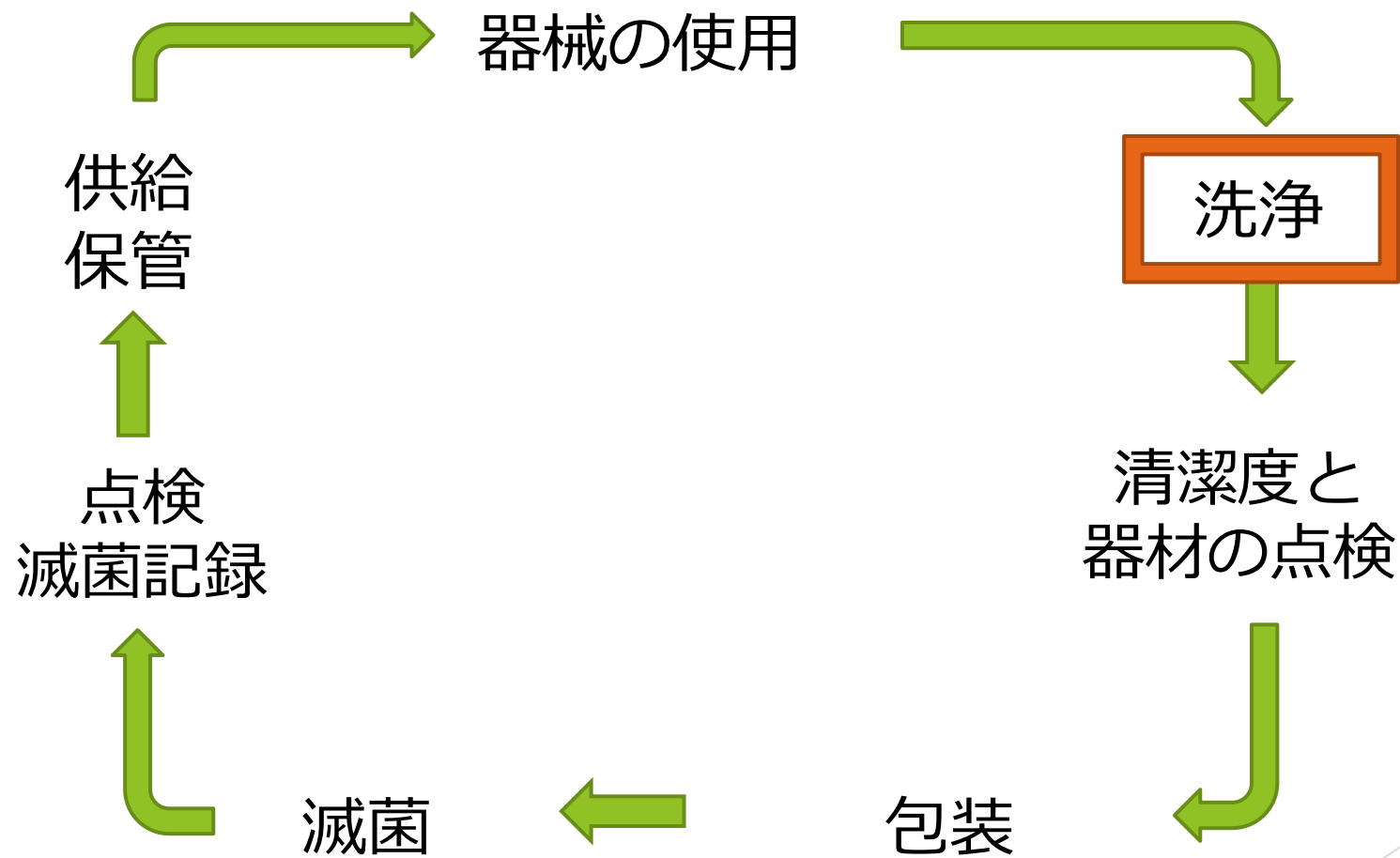
⑨腰椎穿刺時の  
感染予防策

⑩血液感染性病原体への暴露から医療従事者を保護する

# 洗浄とは

- 使用済み器材に付着している微生物をできる限り取り除く
- スポンジやブラシ、洗浄機を使用して血液や体液、汚れを物理的に取り除く
- 医療用洗剤の力で血液や体液、汚れを科学的に取り除く

# RMD(再使用可能医療機器)のサイクル



# 洗浄が必要な理由

- 汚れが残っていると十分な消毒・滅菌効果が得られない
- 残った汚れが消毒・滅菌で変成し、使用する際に体内に異存する可能性もある。



# 洗淨の6つのポイント

- 水を使う
- 物理的力に頼る
- 医療用洗剤を使う
- 温度を守る
- 洗淨前は乾燥させない
- 洗淨時はPPEを着用する

# 洗浄の6つのポイント

- 水を使う 汚れを落としやすい
- 物理的力に頼る 汚れをこそぎ落とす
- 医療用洗剤を使う 「酵素」が大事
- 温度を守る 40度程度の温度
- 洗浄前は乾燥させない 汚れ固着防止
- 洗浄時はPPEを着用する 自身の身を守ろう!!

# 消毒とは

- 物体や生体に、付着または含まれている病原微生物を死滅又は除去させ、害のない程度まで減らすこと。
- 病原微生物をすべて殺滅したり除去するものではない。
- 消毒レベル(スポルディングの分類)が分けられ、器材の使用目的や、清潔欲求度によって消毒レベルを選択する。
- 消毒方法には物理的消毒法と科学的消毒法がある。
- 消毒の前には汚れを落とすために、洗浄が必要とされる。

# ス波尔ディングの分類

分類	用途	消毒水準
クリティカル	無菌の組織や血管に挿入するもの	滅菌
セミクリティカル	粘膜または健常でない皮膚に接触するもの	高水準消毒 中水準消毒
ノンクリティカル	健常な皮膚とは接触するが粘膜とは接触しないもの	洗浄/低水準消毒

# 物理的消毒法(洗浄機)

- 消毒薬を使用しないで行う方法
- 標準的に消毒が可能である
- 設置が高価である
- 基本的には消毒には熱を利用する為、耐熱性の低い器材は消毒できない。



# 化学的消毒法(浸漬消毒法)

- 熱が使用できない場合に使用する方法である
- 標準的に消毒を行う事が難しい
- 消毒薬によって微生物を殺滅できる範囲が違う
- 消毒薬には生体毒性があり、皮膚、呼吸器、中枢神経系などに対して障害作用を示す
- 浸漬消毒法が一般的である。

# 浸漬消毒の6つのポイント

- 洗浄する
- 濃度を守る
- 時間を守る
- 浸漬する＝消毒液に浸す
- 消毒後は乾燥させる
- 消毒を行う際にはPPEを着用する

# 滅菌技師としての活動

- ▶ 定例会議の開催
- ▶ 滅菌物の保管や管理方法の勉強会開催
- ▶ 医療器材を洗浄消毒方法の相談
- ▶ ニュースの発行
- ▶ 病棟全体のラウンド

滅菌物保管管理状況

一次洗浄・消毒状況

ベッドパンウォッシャー作業状況

汚物室の環境改善



# TAKE HOME MESSAGE

個人防護具の着用!!

- 洗浄消毒業務は標準予防策のひとつ。

- 洗浄の6つのポイント

水を使う・物理的力・医療用洗剤・温度・乾燥させない

- 消毒の6つのポイント

洗浄・濃度・時間・浸漬・乾燥させる

私たちから動こう!!

# 参考文献

- 一般社団法人 日本医療機器学会  
滅菌管理部門 スタッフのための教育ツール
- 一般社団法人 日本医療機器学会  
医療現場の滅菌 改訂 第5版